

I 令和7年度 事業計画

1. 基本方針

一つ一つの出会いを大切に、犬と人を繋ぎ続け、多くの方にご支援頂き、当協会はお陰さまで今年、前身の任意団体であった「介助犬協会」創設から30周年、社会福祉法人設立から20周年を迎える。

介助犬や動物介在療法を普及すること、犬が人にもたらず力を社会に認知して頂くことで犬の地位向上に寄与することに費やして四半世紀、木村氏とシンシアの活動が社会を動かし、厚生科学研究として介助犬研究班が立ち上がり、研究報告書が素案となって身体障害者補助犬法が立案され、2002年法案成立が実現した。介助犬訓練事業は社会福祉事業の位置付けを持つこととなり、介助犬協会は社会福祉法人を設立、橋本久美子会長をお迎えすることが出来、2009年シンシアの丘を設立した。

これまで62組の介助犬ペアを送り出し、人材育成が重要と考えて研修生制度を開始、職員となる人材を育ててきた。

世界的には、自閉症等の発達障害や精神障害、PTSDなど、周りには見えない障害に対して大きな力を発揮する犬の力への注目が増し、Service Dogの範囲は飛躍的に拡大して来ている。当協会もWith Youプロジェクトとして支援者、希望者のニーズに応える形で、あらゆる困難や障害に対して、犬を通じた支援を事業化して来ており、来年度はいよいよ形にできるようにしたいと考えている。また、欧米で普及しつつあり、我が国でもニーズが高まっているFacility Dogについても、当協会としてはDog Interventionの登録商標を取得し、医師、理学療法士や作業療法士等の専門職への研修を提供し、適性のあるDI犬を貸与する、または、職員がDIやふれあいに適性がある犬を連れて医療機関を定期的に訪問して補助療法やリハビリテーションの助けとなる分野についても、先駆的に取り組んで来た。患者さんにとって辛いことばかりの医療機関で過ごす期間が、犬達の力で、温かく心に残る特別な時間に変えられたらどんなに素晴らしいことか、と願って活動してきた。多くの病院や医療従事者からのお問合せからも、医療従事者の関心は確実に広がりを見せていると実感した2024年度であった。司法の場では虐待や性被害を受けた子供さんへの支援に付添犬達が大活躍をした。これからの夢は、日本中の病院、日本中の児童相談所に子供達の為に犬がいる社会づくりだと考えている。

新たなる役員をお迎えし、これからの30年、新たな気持ちで躍進を遂げるべく、大きな挑戦を遂げていきたい。

理事長 高柳友子

2. 取組事項

2-1. 介助犬等育成事業

2-1-1. 介助犬育成

- 1) リハ専門職との連携による、介助犬希望者3~5名（うち新規1名）に対する介助犬貸与の検討、調整および実施の取組み
- 2) 介助犬使用者13名に対する継続指導

2-1-2. Dog Intervention®

- 1) 勤務犬（DI犬®）貸与先の聖マリアンナ医科大学病院に対する継続指導
- 2) 楓の丘こどもと女性のクリニックへのDI犬貸与継続の検討
- 3) 聖マリアンナ医科大学病院、野のすみれクリニック、千葉リハビリテーションセンター、児童相談所一時保護所（名古屋市、川崎市）におけるDI活動の継続
- 4) 子ども支援センターつなぐからの付添犬派遣要請への対応
- 5) 障害児に対するリハ専門職による犬プログラムの検討および実施
- 6) 慶応義塾大学病院へのDI活動支援

2-1-3. With You プロジェクト

- 1) 障害児・者等のいる家庭2~6組に対するニーズに合わせたキャリアチェンジ犬の譲渡の支援の取組み
- 2) ADI基準に則した発達障害児等の社会参加を手助けする犬の提供についての検討および実施

2-2. 繁殖・犬導入および飼育・訓練事業

2-2-1. 繁殖・犬導入

- 1) 3回の交配および出産の実施、15頭のパピー確保
- 2) 10頭の繁殖犬（雄2頭、雌8頭）の確保（うち新規雌4頭）
- 3) 自家繁殖以外からの8~10頭のパピーの導入
- 4) 海外の育成団体を含めた2~4頭の候補犬の導入
- 5) 岐阜大学の協力のもと、凍結精液の作成

2-2-2. 飼育および訓練

- 1) 20～25 頭（内、新規訓練犬 10 頭）の候補犬に対する、介助犬としての評価および訓練の実施
- 2) 4～10 頭の候補犬に対し、DI 犬®としての評価および訓練の実施
- 3) パピーに対する訓練およびパピーホームボランティアに対する預かり訓練および訪問指導の実施

2-3. 相談事業

肢体不自由者やその他相談者など介助犬等希望者への対応および、犬を介した支援の検討または専門機関を紹介するなどの情報の提供

2-3-1. 介助犬希望者

- 1) 2 回以上の介助犬に関心のある障害者を対象にした対面またはオンラインによる相談会の実施
- 2) 介助犬希望者宅への訪問相談および支援の検討などの調査の実施
- 3) 介助犬希望者・待機者を対象にした体験入所等の実施
- 4) 介助犬希望者・待機者への専門機関への情報提供

2-3-2. Dog Intervention®

DI を希望する専門職・専門機関からの相談対応

2-3-3. With You プロジェクト

With You プロジェクト希望者を対象にした説明会の実施

2-4. 普及啓発・広報活動

介助犬・身体障害者補助犬法の認知度向上および寄付収入増加を目的とした、普及啓発・広報活動の展開

介助犬希望者・個人支援者・支援団体企業、マスメディア等、対象者毎への適切な情報提供を行う為の内容・形態、媒体の最適化

2-4-1. 普及啓発イベントおよび講演等

- 1) 介助犬フェスタ 2025
愛知県との共催による開催（5 月 17 日（土）於愛・地球博記念公園）

- 2) 訓練センターにおける一般見学会の開催（毎月1回）
- 3) 訓練センターにおける団体見学者の視察受け入れ
- 4) 企業等からの依頼による講演（対面およびオンライン）
- 5) 介助犬サポート大使（ジュディ・オング氏、橋幸夫氏、安藤美姫氏ら）のバックアップによるイベント時の広報活動
- 6) 肢体不自由者への啓発
福祉機器展等への参加による啓発活動
 - ・ バリアフリー2025 : 4月16日（水）～18日（金）インテックス大阪
 - ・ 国際福祉機器展 2025 : 10月8日（水）～10日（金）東京ビッグサイト

2-4-2. 企業等との連携による啓発イベント

- 1) 「はたらくワンワンランド」
「ガンバレ！介助犬！JA 共済はたらくワンワンランド」への参加の強化
- 2) 読売巨人軍とのタイアップによる継続的な啓発活動の実施
- 3) その他企業・団体・行政とのタイアップによる啓発活動の実施

2-4-3. 講演会および講師派遣

大学、専門学校等への役職員の派遣の強化

（過去実績大学例）

愛知医科大学・藤田医科大学・日本福祉大学・朝日大学・淑徳大学・
帝京科学大学・大阪保健医療大学・名古屋外国語大学・山梨学院大学・
神奈川県立保健福祉大学・横浜市立大学・ハワイ大学・
ヤマザキ動物看護大学、麻布大学 等

2-4-4. 募金活動

本部およびセンター近郊地域における啓発および企業団体・慈善団体との
連携、強化・募金活動の実施

2-4-5. マスコミ等メディア媒体を利用した啓発

- 1) Google Ad Grants の活用
- 2) 新聞およびテレビ番組などのメディアに対する映像・写真素材の提供
- 3) プレスリリースの積極的活用
- 4) 各種メディア掲載実績のホームページ上への公開
- 5) X（旧 Twitter） / Facebook / Instagram / YouTube / TikTok / note への積極的発信

2-4-6. 会報誌・ホームページ、その他制作物による啓発

- 1) 会報紙（年4回）の発行
- 2) 閲覧履歴の分析および専門業者との連携によるホームページの随時更新

2-4-7. 関連学会へのブース出展等

リハビリテーション関連学会、獣医療関連学会等関連学会における
ブース出展、デモンストレーションの実施

【参加予定学会一覧】

- ・第60回日本理学療法学術研修大会 : 5月31日（土）～6月1日（日）
- ・第62回日本リハビリテーション医学会 : 6月12日（木）～14日（土）
- ・第40回日本環境感染学会総会・学術集会 : 7月10日（木）～12日（土）
- ・第33回日本慢性期医療学会 : 11月6日（木）～7日（金）
- ・第60回日本脊髄障害医学会 : 11月13日（木）～14日（金）
- ・リハビリテーション・ケア合同研究大会 大阪 2025 : 11月21日（金）～11月22日（土）
- ・日本身体障害者補助犬学会第17回学術大会 : 秋開催予定

2-5. 調査研究

障害者が介助犬等との生活を円滑に送る為の研究および調査

- 1) 学会参加
第17回日本身体障害者補助犬学会等への参加、学会団体会員として演題発表
- 2) リハビリテーション専門職等との補助具の開発

2-6. 関係団体協力

良質な介助犬育成の為の訓練犬の確保を見据えた繁殖情報の交換、
繁殖協力関係の強化および、関係団体からの協力要請への対応

2-6-1. 補助犬育成団体との連携

- 1) 日本盲導犬協会、北海道盲導犬協会、関西盲導犬協会、九州盲導犬協会、
東日本盲導犬協会等との繁殖交流およびキャリアチェンジ犬の導入、
研修先としての団体間の関係強化
- 2) 日本身体障害者補助犬学会への団体会員加盟

2-6-2. 諸外国の補助犬団体との連携

- 1) ADI (Assistance Dogs International) 加盟団体間からの情報収集および情報交換
- 2) IBC (International Breeding Cooperative) /IWDR(International Working Dog Registry)の加盟団体間との情報交換
- 3) O'smos (ベルギー介助犬育成団体) からのトレーナーの招聘

2-6-3. 医療・福祉・行政等との連携強化

医療従事者向けのセミナー等の開催

2-7. 補助・助成申請（令和7年度）

【決定】

- 1) 事業名：犬を介した障がい児者・被虐待児の支援における海外先進事業の国内導入・普及へ向けた基盤づくり
 - ・全国生活協同組合連合会：300万円
 - ・教職員共済生活協同組合：150万円
 - ・全国労働者共済生活協同組合連合会：100万円
 - ・埼玉県民共済生活協同組合：50万円
- 2) 事業名：介助犬育成事業に携わる人材育成
 - ・シンシア基金：10万円

【申請中】

介助犬総合訓練センター 床材変更および壁紙貼り替え工事
・愛知県共同募金会：181万円

【申請予定】

- ・中部ウォーカーソン
- ・愛知県身体障害者補助犬啓発事業（補助金収入(公)）
- ・長久手市ふるさと応援活動支援事業（補助金収入(公)）

2-8. 管理・運営

2-8-1. 理事会・評議員会等

定例理事会、評議員会等の開催

- ・ 4月17日(木) 13:00～14:00 評議員選任・解任委員会
- ・ 5月9日(金) 13:00～15:00 監事監査
- ・ 5月22日(木) 14:30～16:30 第1回通常理事会
- ・ 6月17日(火) 13:30～15:30 定時評議員会（役員改選予定）
- ・ 6月17日(火) 16:00～16:45 第2回通常理事会
- ・ 11月 第3回通常理事会・評議員報告会
- ・ 令和8年2～3月 第4回通常理事会

2-8-2. ファンドレイジング

安定した事業運営基盤の確立に向けた賛助会員数の継続、増加および寄付収入施策の検討・実施および収益事業の充実

【寄付・会費・募金・人的支援等】

- 1) 新規法人会員獲得および既存法人会員継続の為の訪問
- 2) 新規支援者獲得の為の広告媒体の活用（yahoo,TVer等）
- 3) 遺贈寄付獲得の為の対応強化（包括遺贈の受け入れ検討・金融機関への働きかけ）
- 4) 長久手市とのコラボレーションによるふるさと納税継続
- 5) 愛知県および新横浜周辺の郵便局への募金箱設置等、本部およびセンター近郊地域募金箱設置場所の拡大
- 6) 寄付付き自動販売機の更なる設置促進
- 7) 会員に対する会報やメールによるニュースレター配信等の継続
- 8) 口座振替やクレジットカード等、会費納入の手軽さの更なる推進
- 9) ボランティア交流会等（年1回）による人的支援の継続の為の施策

【収益事業】

- 1) 販売実績に基づいたグッズの再作成および新規制作による販促活性化施策の推進
- 2) 巨人関連グッズの制作および販売

2-8-3. 年間行事

- ・ 5月17日（土）『感謝の集い～認定報告会～』（介助犬フェスタ 2025 内）
- ・ 10月18日（土）『使用者の集い』（於介助犬総合訓練センター）
- ・ 10月19日（日）『慰霊祭』（於介助犬総合訓練センター）

2-8-4. 施設保守・営繕・環境整備

- 1) 介助犬等育成事業継続および発展の為に全天候型ドッグランの建設
- 2) 介助犬総合訓練センターの敷地・建物・備品維持保全にかかる改修計画の策定および実施
- 3) センターおよび本部における発災時の人・犬の避難にかかる避難経路・避難場所の確保、防災対策チームの発足
- 4) 保有車両について、経過年数や走行距離に基づき計画的購入・保守の検討

2-8-5. 人的資源・経営資源の有効活用

人的資源・経営資源の有効活用の為に業務効率化の検討、DX（Digital Transformation）化施策の遂行および発災後の事業継続についての検討

- 1) 顧客管理システムおよび犬管理システム等、事業継続の為にDX化に向けた計画の策定
- 2) 発災後のBCP計画（Business Continuity Plan・業務継続計画）の策定の必要性の検討

2-8-6. 福利厚生

- 1) 職員の労災予防および健康管理の為に健康増進プログラムの策定・導入
- 2) 福利厚生プログラム『ソウエルクラブ』の継続加入、職員の余暇活動等の活性化
- 3) 職員のライフプランニングについて考える機会の継続的な提供

2-9. 人材育成・研修

2-9-1. 目標設定・人事評価システム

目標設定システム（あしたのチーム）活用による適正な査定制度の継続的運用の実施

2-9-2. 人材育成部門による職員の人材育成

- 1) 飼育管理担当者、パピー担当者等全ての訓練部職員を対象とした OJT による犬のハンドリング技術力向上支援
- 2) 広報活動の為の話し方等 MC 技術、および犬のハンドリング技術の向上支援
- 3) 研修生の教育および研修修了生の継続的な技術力向上支援
- 4) 職員のメンタルケアとモチベーション維持の為の支援

2-9-3. 研修（セミナー受講）の推奨

- 1) リハビリテーション関連、犬関連に関するもの
- 2) 広報活動の為のマナーおよび MC 技術向上に関するもの
- 3) 法令遵守、企業コンプライアンスに関わるもの
- 4) 企業内 DX 化に必要な知識の習得に関わるもの
- 5) 社会福祉法人の会計に関する知識
- 6) その他、資格取得・自己啓発に関する研修について、職員毎に計画的な研修の受講の働きかけ

2-10. 研修生制度

介助犬訓練育成を主軸とした当会の活動に関わる人材の養成

・研修期間：令和 7 年 4 月～9 月末（令和 7 年度 2 名採用予定）